

# 「外来心臓病教室」での薬剤師の活動

薬剤部・薬局訪問 第107回 天理よろづ相談所病院

## 心臓リハビリテーションチームへの貢献



【公益財団法人 天理よろづ相談所病院】  
奈良県天理市三島町200  
●病院長：山中忠太郎  
●病床数：715床  
●外来患者数：1日平均約2,000人  
●外来患者への処方箋発行枚数：1日平均1,100枚  
●院外処方箋発行率：3%  
●薬剤師数：55名

〈2017年6月現在〉

天理よろづ相談所病院薬剤部は、地域基幹病院の薬剤部として、チーム医療や外来指導など幅広い活動に取り組んでいます。外来患者を対象にした心臓リハビリテーションチームにも薬剤師が参画し、患者指導の一環として開催する「外来心臓病教室」でも講師を務めています。薬剤部の取組みと、外来心臓病教室での薬剤師の活動について、薬剤部長の上田睦明先生、薬剤師の中島亜梨沙先生にお話を伺うとともに、循環器内科医の近藤博和先生に心臓リハビリテーションチームの活動と薬剤師への期待をお聞きしました。

### 地域の指導的役割を担う薬剤部として 外来患者のフォローアップにも注力

●●薬剤部の理念と方針をお聞かせください。

**上田** 地域基幹病院の薬剤部として指導的な役割を果たせる薬剤師の育成を目指しています。また、薬剤師に与えられた義務であり権利である処方鑑査や疑義照会をしっかりと行えることを基本に、病棟をはじめ日々の業務に取り組んでいます。

新人薬剤師には、病院薬剤師の基本業務を約2年かけて学べるようカリキュラムを組んで教育を行うとともに、学会への参加を奨励しています。基本業務について一通りの経験を積んだ上で、興味を持つ分野を見つけ、スペシャリストを目指すことが重要だと考えています。

●●注力している業務をお教えてください。

**上田** 院内処方箋発行率がほぼ100%ということもあり、外来患者さんのフォローアップが目下の重点テーマです。がんの疼痛緩和指導、吸入指導、リウマチ患者服薬指導、「外来心臓病教室」での服薬指導に力を入れています。

**中島** 私は、循環器内科と消化器内科の両病棟を担当しています。循環器疾患は、他の様々な疾患因子が関与しており、幅広く学べる領域だと実感しています。

病棟業務以外に、リハビリセンター副部長の近藤先生を中心とした心臓リハビリテーション（心臓リハビリ）のチームに参加し、「外来心臓病教室」では他のスタッフとともに講師を務めています。

### 外来心臓病教室では 服薬アドヒアランス向上を図る

●●心臓リハビリチームについてお教えてください。

**近藤** リハビリセンターでは、心血管疾患の発症後や術後早期から病状の回復と再発予防のために、心臓リハビリを多職種チーム（医師、理学療法士、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師）で実施しています（写真）。

入院中や退院時に受けた指導内容を退院後も遵守してもらうには、病気や薬剤、栄養などの理解を深めてもらうことが大切です。そこで、外来心臓リハビリ実施日に合わせて「外来心臓病教室」も開催しています。

### 写真



心臓リハビリチームは月1回のカンファレンスを行っており、各職種が持つ専門知識を生かして、疑問や目標を話し合っている。

●●「外来心臓病教室」はどのようなプログラムですか。

**近藤** 週1回、心臓リハビリチームの6職種がそれぞれのテーマで30分～1時間程度の講義を行います（図表1）。スライドやテキストを使い、病気や日常生活の注意点などを解説しています。

1回の参加者は5～15名程度です。6回で1クールですが、繰り返し参加する患者さんも少なくありません。患者さんからは病気についてだけでなく、便秘解消や水分摂取量など、生活に関連した様々な質問があります。理解しやすいよう、医学用語をできるだけ使わずに、かみ砕いた表現を心がけています。

図表1 外来心臓病教室 講義内容（例）

3/22(水)	「体力テストを運動に活かそう」…理学療法士
3/29(水)	「心不全について」…………… 医師
4/5(水)	「塩分について」…………… 管理栄養士
4/12(水)	「血圧について」…………… 看護師
4/19(水)	「心臓に関わる薬はなし」…… 薬剤師
4/26(水)	「心肺運動負荷試験について」… 臨床検査技師

●●薬剤師の講義は、どのような内容ですか。

**中島** 心臓病に関わる薬剤を中心に、ハイリスク薬である抗凝固薬や抗血小板薬、利尿薬などの薬効や副作用を主に説明しています。退院後は、「病気はもう治った」と思い、治療のモチベーションが低下している方も見られます。飲み忘れを防ぎ、継続的に服用してもらうことの重要性を説明しています。薬剤に関する基本的な注意点や、お薬手帳の活用方法などは、オリジナルパンフレット（図表2）を使ってお伝えしています。



薬剤師 中島 亜梨沙 先生

薬剤師が担当する回は、基本的に予約制です。講義前に患者さんのカルテを確認しておき、最新のお薬説明書を個々に渡して説明し、質問にも十分な時間をとって個別にお答えしています。

●●講義の際に心がけている事柄はありますか。

**中島** 参加型の講義を目指しています。薬剤の説明では、実物の薬を見ていただきながら「この薬、飲んでいませんか」「お薬の管理はどうされていますか」などと問かけると、皆さん積極的に回答していただけます。

参加される患者さんは、それぞれ服用される薬剤が違い、理解度も様々ですので、講義前後でアンケートを実施し、理解が深まったか把握するよう努めています。

●●教室に参加された患者さんの反応はいかがですか。

**中島** 教室終了後もすぐに帰宅されずに、気になる症状や、薬と食品の飲み合わせなどについて積極的に質問される患者さんも多くおられます。また、集団で参加することで、不安に思っているのは自分だけではないことに気付かれることも多く、患者さん同士の交流も生まれ、治療や生活の不安軽減にもつながっているようです。

●●薬剤師が外来心臓病教室に参画する意義とは何でしょうか。

**近藤** 薬剤師には、入院中から服薬指導をしてもらっていますが、理解不十分な患者さんもいれば、退院後に薬剤が変更されることもあります。退院後も継続して服薬の必要性を繰り返し説明し、個別相談に応じることで、患者さんの理解やアドヒアランス向上の助けになっていると思います。

### 外来服薬指導の充実と 院内外の啓発活動を目指して

●●薬剤師への期待や、今後の抱負、展望についてお聞かせください。

**近藤** 今後は、心臓リハビリに通っている患者さんだけでなく、他の通院患者さんに対しても、外来服薬指導を広げてもらえるとうり難しいです。また、他のスタッフに対しても、薬剤の理解度を高めるための啓発をしていただけたらと期待しています。

**中島** 教室でとっているアンケートの結果を更に詳細に分析して、患者さんの要望を反映するとともに、心臓病教室の内容の充実化を図りたいと思っています。

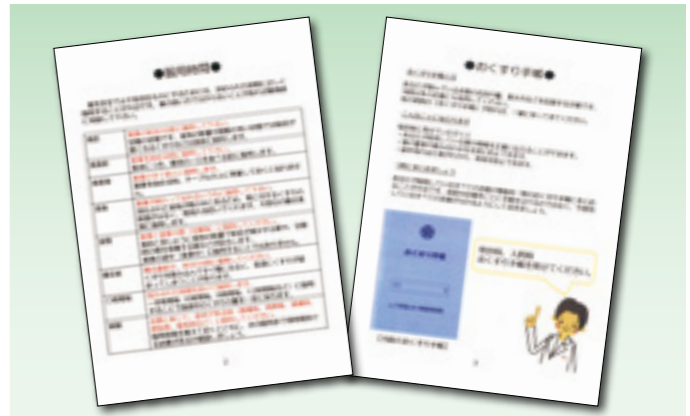
また、病棟業務では消化器内科病棟も担当しておりますので、この活動で得た知識を生かし、がんに関する知識なども幅広く勉強していきたいと考えています。

**上田** 当院は、地域がん診療連携拠点病院でもあります。個々の薬剤師がスペシャリストとして部内スタッフを教育するとともに、外に向けて臨床研究の成果を発信できる薬剤部を目指し、レベル向上に努めていきたいと思っています。



リハビリセンター副部長/循環器内科医 近藤 博和 先生

図表2 外来心臓病教室で配付するパンフレット



提供：天理よろづ相談所病院薬剤部